

コラム

金型で培った技術やノウハウを生かして3Dフィギュア事業に参入
・・・(株)アムト

大手自動車部品メーカーのティア1として、主に自動車エンジン関係の金型の製作・補修を手がける(株)アムト(愛知県安城市)は、いち早く最新鋭の設備を導入し、他社に先行して加工ノウハウを蓄積することを重視しており、必要な設備は迷わず導入しているため内製率が高く短納期にも強みを発揮している。

そんな同社は3年前、これまでとは全く異なるB to Cの3Dフィギュア事業に参入しようと考え、翌年から研究開発に着手し、昨年事業化にこぎ着けた。今後5~10年先を見据えた際、事業環境が今よりさらに厳しくなることが予想され、かつ、3Dプリンタがものづくりにおいて大きなインパクトをもたらすと予想されたことから、石こうでフィギュアをつくり、人をどこまで精緻につくれるかに挑戦することで3Dプリンタによるものづくりのノウハウを蓄積し、将来の技術革新に備えようと考えた。

これまでB to Bの事業しか手がけた経験のない同社にとって、この3Dフィギュア事業をいかに知ってもらうかが大きな課題であったが、地元の新聞社が「あなたの模型 作ります」というキャッチコピーで取り上げてくれたり、その後、テレビでも取り上げられたこともあって全国から問い合わせが入り、注文にもつながった。ところが、蓋をあけてみると、「亡くなった主人のフィギュアをつくってくれないか」といった故人を偲ぶ注文が多く、これは想定外のことであった。

同社がフィギュアづくりで最も重視しているのは、写真では表現できない「温もり」である。写真からフィギュアを作り込むことも可能であるが、何体も作り込んでいく中で、人はそれぞれ立ち居振る舞いに特徴があることを実感し、スキャンした360度で感じるものを作り込むからこそ、写真とは違う“温もり”を伝えることができる。この360度の温もりを大切にすることこそ、写真からの制作はお断りしており、今だからこそ「カタチ」を残せるビジネスとして確立させたいと考えている。

これまでB to Bの金型製作を手がけてきた同社にとって、一般のお客様へ直接納品できる喜びは大きい。この喜びを表現する手段として、フィギュアを納品する際は必ず直筆の手紙を添えている。お客様とのコミュニケーションを大切に、かつ、常に初心に戻るためにも直筆の手紙は必要なことだと考えている。

±0.01ミリの精度で勝負する金型事業と、「ことづくり」で勝負する3Dフィギュア事業とは、顧客も要求技術もかなり異なるが、品質を落とさずに作業時間の短縮を図ることが課題のフィギュア事業には金型で培ったノウハウが生かされているという。また、フィギュア事業を通して自らの技術や製品をアピールすることの重要性が実感できたとして、今後も金型とフィギュアの相乗効果が期待されている。

最新鋭設備と最新技術で、最高のカタチを届ける3Dフィギュア



コラム

腕時計部品の製造で培ったものづくりのDNAで時代変化を乗り切る
・・・(株)小松精機工作所

かつて長野県の諏訪地方は諏訪精工舎(現セイコーエプソン)の腕時計をつくる協力企業が集積し、時計やカメラなどの精密機器製造業の一大集積地であったことから東洋のスイスと称されていた。(株)小松精機工作所(長野県諏訪市)も諏訪精工舎の腕時計の組立工場として1953年に創業し、協力企業の御三家の一角を占めていた。しかし、1970年代後半には時計生産の海外シフト及び成熟化が進み、親企業から自立化を指導された。仕事の全量を親企業に頼っていた同社は、これを契機に腕時計部品メーカーから電子部品やIT機器部品へと業態転換し、一時は情報電子部品の売上高が7割を占めるまでに至ったが、2001年のITバブル崩壊でその全量が一気に失われた。現在の主力事業は80年代から少しずつ手がけてきた自動車部品で、ガソリンエンジン燃料噴射装置のインジェクタ先端に装着されるオリフィスプレートでは世界シエ